

平成29年度

委員会 研究ならび事業報告

部・委員会名
菱田春草研究委員会
(委員数 8名)

委員長	仲田 浩 (泰阜小学校)
副委員長	倉澤 啓 (阿南第二中学校)
会計	関 香保里 (緑ヶ丘中学校)
記録	田中 亜季 (座光寺小学校)

研究テーマ	「郷土の先覚者、人間菱田春草とその作品について調査研究し、その偉大さを顕彰すると共に、教育の場に資する」
研究内容 (箇条書き)	<p>1 菱田春草の作品等の調査研究</p> <p>(1) 下伊那教育会所蔵の春草作品、飯田美術博物館への寄託作品、書簡に関する調査</p> <p>(2) 研修会(飯田美術博物館での春草作品の鑑賞・研修旅行等)</p> <p>(3) 郷土調査部研究発表会での発表及び飯田美術博物館での学芸祭発表等</p>
事業概要 研究調査 研修会 講演会 発表会 研究授業 冊子作成 など	<p>a 作品研究 8月10(木)参加者9名 アルベルト・ジャコメッティ展:彫刻 <東京国際新美術館> スイスに生まれ、フランスで活躍したアルベルト・ジャコメッティ(1901-1966年)は、20世紀のヨーロッパにおける最も重要な彫刻家のひとり。身体を線のように長く引き伸ばした、まったく新たな彫刻を創造した。ジャコメッティは、見ることと造ることのあいだの葛藤の先に、虚飾を取り去った人間の本質に迫ろうとした。その特異な造形が実存主義や現象学の文脈でも評価されたことは、彼の彫刻が同時代の精神に呼応した証。またジャコメッティは、日本人哲学者である矢内原伊作(1918-1989年)と交流したことで知られ、矢内原をモデルとした制作は、ジャコメッティに多大な刺激を与えた。本展覧会には、ジャコメッティの貴重な作品を所蔵する国内コレクションのご協力も仰ぎつつ、初期から晩年まで、彫刻、油彩、素描、版画など、選りすぐりの作品、132点が出展されていた。</p> <p>川端龍子展:日本画 <東京:山種美術館> 日本画家・川端龍子(1885-1966)は「健剛なる芸術」の創造を唱え、大衆に訴える作品を描き続けた作家である。洋画から日本画への転向や院展脱退、絵画団体「青龍社」の樹立、規格外の大画面制作など、従来の枠組みを破るため常に挑戦を続けた。迫力に満ち、スケールの大きな龍子作品は、発表当時「昭和の狩野永徳」とも評されている。山種美術館では、龍子の没後50年を経たことを記念し、初期から晩年にかけての名だたる代表作を取り揃え、その画業を振り返る特別展が開催されていた。</p> <p>b 郷土調査部発表会 期日 1月27日(土) 会場 鼎文化センター 発表者 関香保里(飯田市立緑ヶ丘中学校) 発表テーマ 「未完成作品『雨中美人』をきっかけにした春草作品鑑賞の授業のあり方」</p>